

## 先輩職員からのメッセージ

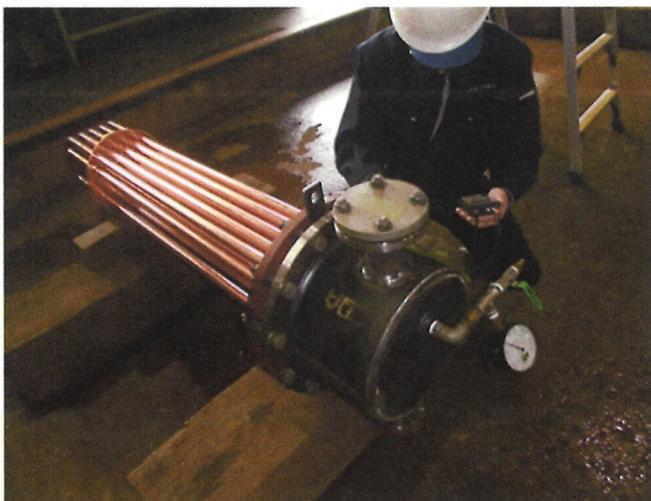
中部検査事務所 伊藤 寿朗

ボイラや圧力容器は、工場内やビルの地下に設置されているため普段見る機会はありませんが、見えないところで私たちの生活を支えています。大規模な石油コンビナートや化学プラントにも多数設置されていますが、身近なものでは、公共施設の暖房や給湯設備、食品や医薬品の製造設備、病院では手術器具の消毒器として使用されています。

私は、1996年4月に日本ボイラ協会に新卒で入社し、今年勤続26年目になります。現在は愛知県下の事務所で管理職をしつつ、検査員として検査業務に携わっています。

当協会は、ボイラ・圧力容器の検査、調査研究、教育出版を行っている機関ですが、その中でもコア事業となる検査を行っているのが、全国に35か所ある検査事務所です。

当協会が行う検査は大きく、製造時（出荷前）に行うものと供用中に行うものに分けられます。製造時に行う検査は、構造要件を定めた規格に適合していることを書類審査したうえで、最終的には現物を耐圧試験しその安全性を確認します。また、供用中の検査は、機器を停止・冷却させた状態で内部に入り、構造要件が維持されていることを検査・測定機器等を用い確認します。これら検査の結果、検査員は合否の判定を行わなければならないため、専門的な知識をもっていなければなりません。



また、メーカーやエンドユーザーから、日々様々な相談があります。真摯に的確な対応をすれば信頼を得ることができ、謝辞をいただくこともあります。**仕事で得た知識や経験が労働者の安全、社会の安心に微力でも貢献できた時やりがいを感じています。**

新卒採用で検査員の資格を得るには3年程度の期間がかかります。長いように感じますが、皆さんが大学で習得した“ものづくり”の基礎を十分に生かすことができる分野だと思いますし、検査員の養成研修は専門性の高い職員が指導員としてサポートしてくれるため心配はいりません。

当協会を取り巻く環境は日々変化しており、それに合わせて既存の考え方や仕組みも変えていかなければなりません。

**皆さんが持つ新しいアイデアや価値観を今必要としています。**

製造時検査（水圧試験及び板厚測定）の実施状況



リモート会議中



講習会で講義をしている様子

本部検査部 椎葉 大輔

ボイラ協会に入協したのは、2009年4月の事でした。私は中途採用でボイラ協会に入協しましたが、前職はプラント運転を行う会社で、実際に大型の発電用ボイラーの運転に携わっていました。

ボイラ協会入協後は、協会本部での研修を経て、埼玉検査事務所へ配属されました。そこでは主にボイラーの検査業務を行っていました。ボイラーの性能検査・個別検定は事業場で働く人たちに災害をもたらすことが無いよう、合格・不合格の判定をする、大変やりがいのある仕事です。進化し続けているボイラーに関係する技術について、毎日の検査で新たな発見があるため、自分自身を成長させてくれました。

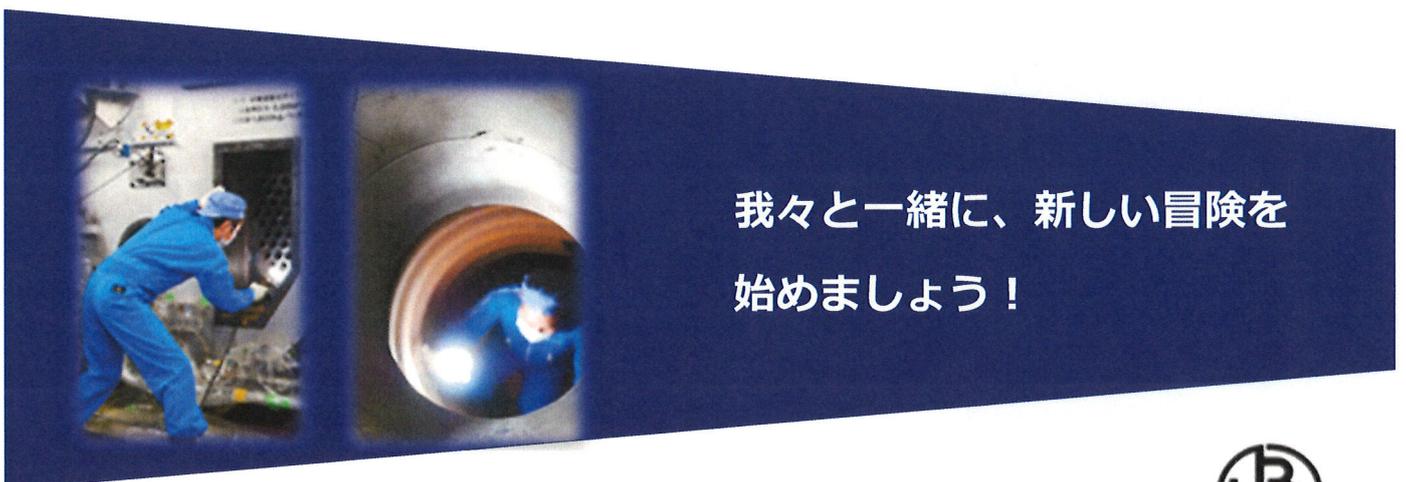
2016年からボイラ協会本部の検査部に異動になり、現在に至りますが、様々な仕事を経験し、とても充実した日々を送っています。

ボイラーの製造、取扱いや運転について、新たな技術に対応していくことは勿論ですが、ボイラーに関する規制やJISの改正にかかわる仕事など、やらなければならないことはたくさんあります。

その中でも、協会に所属する全検査員に対して行われる様々な研修や、一般の方へのボイラー実技講習などでは、大勢の前で話をする事になり、大変緊張するのですが、受講者の反応がすぐに見て取れるため、効果が実感でき、充実感が得られます。人前で話をする事は、自分では苦手だと思っていたのですが、今では楽しんで話をする事ができ、自分の新たな一面を発見できたような気がします。

また、現在、YouTubeチャンネルを開設し、ボイラーに関する様々な動画を作成しており、ボイラーに興味のある人へ、配信を行っているところです。

新たな会社へ就職するということは、自らの将来に対して不安を感じたり、緊張することも多々あることですが、日本ボイラ協会では、皆さんの新たな一歩を踏み出し、新しい自分を発見してみませんか。





## 本部 検査部

茂木 夏実

2019年7月に中途採用で入協し、以来検査部に所属しています。前職では船舶の設計に携わっていましたが、ボイラー自体に関わることは少なくほとんど知識のないところからのスタートでした。

現在は検査員の資格取得を目指して研修に励んでいます。

ボイラーや圧力容器の内部へ入って検査をすることは全く初めての経験で最初は何をしたらいいのかわからず、体の使い方を教えてもらうところから始めました。協会内だけでなく、整備業者の方々にもたくさん支えていただいています。狭かったり突起があったり入りにくい構造であったりと苦労する部分も多々ありますが、“いまこの瞬間に日本でボイラーや圧力容器の中にいる人なんてほとんどいないからレアな経験をしている”と密かな優越感に浸りつつ検査研修に勤しんでいます。

### ある1日の流れ

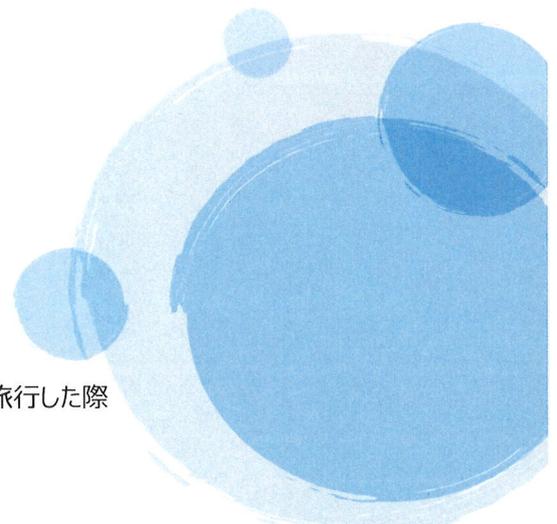
- 9:00 事業場に到着  
検査開始
- 11:00 検査終了
- 12:00 帰社 ランチ
- 13:00 研修内容整理
- 14:00 検査部関連業務
- 16:00 YouTube関連業務
- 17:00 退勤

当協会ではYoutubeチャンネルを開設しており、様々な動画を載せています。その中で2級ボイラー技士の試験問題の解説動画の撮影・編集にも携わっていますが、前職でもプライベートでも触れてこなかった分野なので最初はなかなかうまくいきませんでした。現在も試行錯誤しながら作業していますが、いろいろな方の目に触れてもらえるように工夫して作っていくことは楽しくやりがいがあります。

さて、ワークライフバランスについて、当協会は緊急対応業務等が少なく休暇が取りやすいので、メリハリをつけて仕事に取り組めるかと思えます。まず業務終了時刻が17時ですので、終業後は週に数回スポーツジムに通うなど有意義な時間を過ごしています。また、休暇については年次休暇だけでなくフレッシュ休暇も取れるので、カレンダーと相談すれば長期での旅行も可能です。趣味の旅行を楽しめており、屋久島や北海道を訪れました。最近は遠出が難しい状況ですが、好転したらすぐに旅に出られるよう日々の業務を頑張ろうと思えます。



2021年北海道旅行した際の思い出写真





## 本部 技術普及部

2010年4月入協 検査部配属

2016年4月 技術普及部配置換え

松田 裕

### 【現在の仕事】

私が現在所属している部署では、年次イベントの運営や図書改定作業の他に、調査研究事業も実施しています。本紙では、皆様に関係しそうな、調査研究事業について紹介致します。

### 【調査研究事業の概要】

当協会では、労働安全衛生法に基づく検査や講習事業にて得られた収益の一部を、調査研究事業に充てています。

当協会が実施する調査研究事業では、一般的な民間企業とは異なり、最先端の技術の研究や、新たな技術の開発といったことは実施していません。

当協会の調査研究事業では主に、法令で定められている規格・基準類を対象に、

- ・規格・基準類に関する技術的な質問事項の検討
- ・規格・基準類の改正案の検討

等を行っております。そして、これら事業にて得られた成果物は、JIS 規格や検査関係法令の改正、あるいは、適正な検査の実施に向けた情報発信等に活用されています。

### 【求められるスキル等】

当協会の調査研究事業で得られた成果は、労働安全衛生法に係る検査方法等に影響します。場合によっては、思わぬところで、他の関係法令や規格・基準類にも影響を及ぼすこともあります。このため、現在調査していることが、どのような範囲まで影響を及ぼすのか、それらを踏まえ、最終的な成果物をどのような形で取り纏めるのが良いのか、というところまで考える必要があります。

これらより、ものごとを体系的に整理できる方や、腰を据えてじっくりと物事に取り組める方は、当協会の調査研究事業に向いていると思います。

### 【最後に一言】

皆様はこれから、業界分析や企業訪問等、就職活動を本格的に実施していくことになるかと思えます。

その中で、当協会の業務に興味を持って頂ける方は、お気軽にお問い合わせください。



執筆者

常設委員会(燃焼委員会)の風景

